

# ゆりかご園だより

I期(4・5月) 新しい先生・友だちと仲良くなるう

2018・5・1



事務室にいる私のところへ3歳児クラスのKちゃんがやってきました。

「あのね、お庭にね、せんが、あ、てね。Aちゃんとかぶつかりたらたんこぶができるでしょ〜」  
と言います。走って友だちとぶつかりたんこぶができたとか、転んで擦りむいたといった報告が子どもの口から知らされることがあります。Kちゃんを見たところ、そういった状態ではなさそうです。

4歳児期は話しこぼしの確立する時期だといわれていますが、それ以前の年齢でも「〇〇に△△、て言ってきて」と大人に促され、相手に伝えることを経験していきます。伝えられたこちらとしても、ある程度の状況を想像しながら話を引きだし、「わかったよ」と伝えることで、子どもは「相手に伝わった」という心地よさを感じたり、自信がもてるようになります。こぼしを介しての人とのコミュニケーション力は、4歳に上って獲得するのではなく、他者との応答性あるやりとりを積み重ね、確かなものになっていくと思います。

さて、この時は、一生懸命説明するKちゃんの真意がよくわからず、何度か聞き返すと、「園長先生お庭に来て!」と促されたのです。

園庭の坂の表面は砂で覆われていますが、雨に流されたり子どもたちが集めたりして下方へと落ちていきます。坂の補強をしている砂留の一部が現われ、Kちゃんには線に見えたのでしょう。同じクラスのAちゃんが転んで「せん」にぶつかりでもしたら、たんこぶができてしまうと考えたようでした。Aちゃんはたんこぶや傷が治りにくい症状があり、0歳児クラスから一緒に育った子どもたちは、Aちゃんの個性を受けとめ、自然に気にかけるようになったのです。坂に現われた「せん」にかわいらしい手で集めた砂をかぶせるKちゃん。「3歳児でもこんなに友だちを思いやれるんだ!」と感心しながら私も一緒に砂をかぶせたのでした。

先月末には懇談会があり子どもたちの成長を伝えあい、保護者と保育者はともに子どもの成長を見守っていく仲間なのだと思えて感心しました。

今年の園目標は「考え合おう子どもにして大切なこと」です。何か「できる」「できない」では測れない、目に見えない心の育ちを、大人との応答性あるやりとりを大切にして見守っていけたらと思います。家庭と園が協力し合って…。